

4 (火)

失われた者を捜す神

ルカによる福音書一五章一〜10節

あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を荒れ野に残して、見失った一匹を見つけ出すまで捜し歩かないだろうか。(4)

3/

主イエスが語られたこの三つの譬えは、イエスのまなざしに映る私たち人間の姿を表しています。どんな人も神のもとから離れてしまった存在であるというのです。聖書が語る罪とは、倫理・道徳の問題ではなく、生ける神からの離反であり、断絶です。神を知らずに生きることこそ罪の本質です。これらの神のもとから離れた人間を、神は一所懸命に捜し求めておられます。この小さな私たちも神にとっては大切な宝だからです。誰一人として不必要な存在はいません。私たちが自分で自分を見放しそうになっても、神は私たちを失われた宝として捜しておられます。神の御子がこの私の救いを求めてこの世に来てくださり、十字架で命をも捨ててくださった、その驚くべき恵みが分かるとき、私たちはこの神のもとへと帰り、自分を大切にして生きること始めることができます。